

今年も一年ありがとうございました。

農事暦解説

最初の生物が発生した時よりもはるか昔から地球と月の間では引力が存在し、すべての生物はこの引力の影響下の中で進化しながら現在に至っています。そこで、月の満ち欠けに着目すると誰でも作物の管理がわかりやすく理解できると思い今年も農事暦を作成しました。

※生物は、新月と満月のころ活動が活発になるようです。そこで、**新月、満月後の数日間**が薬剤散布の**適期**となります。この時期に散布すると効果が高いと言われています。

潮の動きに着目すると植物はおおむね次のような生育パターンで生長していきます。

小潮から大潮にかけてのリズムが充実期：(盛んに吸肥を行い、細胞が増殖する時期)、この時期は盛んに細胞の分裂する時期なので細胞壁の主成分のペクチン酸カルシウムが順調に作られなければなりません。この時期に微量要素、特にカルシウムを適宜与えることはカルシウム欠乏を予防することに繋がります。**充実期の中潮のころにカルシウム主体の微量要素剤を葉面散布しましょう。**

大潮から小潮にかけてのリズムが伸長期：(増殖させた細胞を伸長させる時期)この時期は分裂した細胞が伸長する時期なので伸長期の中潮のころに**一般の液肥で葉面散布**しましょう。

※そしてこの充実期と伸長期に挟まれた期間に『月桃の力』を散布することをお勧めします。月桃の力は、3つの効果で作物を守り健全な成長を助けます。

- ① カテキン効果、(お茶のカテキンの20倍以上含まれる)
- ② ファイトケミカル・フィトンチッド効果、(テルペン類が197種類以上含まれる)
- ③ 植物活力効果(テルペン類の一種である植物ホルモンのオーキシンが含まれる)

※月桃の力は、農薬と混ぜてもOKです。

展着剤として天然由来で浸透移行性の**アプローチ BI (脂肪酸エステル)**をお勧めします。

薬液の作り方は①水に展着剤アプローチ BI (1000倍希釈)を入れる。

- ②次に月桃の力(2000倍希釈)を入れる。
- ③次に液肥(適倍希釈)を入れる。
- ④最後に農薬(適倍希釈)を入れる。

※月桃の力に含まれるカテキンの中のエピガロカテキン(EGC)とアプローチ BI の脂肪酸エステルの相乗効果でウイルス病や細菌病に効果が期待できます。

大阪大学発の新カテキン技術「CateProtect」【カテプロテクト】

参照 <http://resou.osaka-u.ac.jp/ja/feature/2015/20151117>